

もも・ネクタリン特報

生育は4月20日頃から停滞し、現状は平年・昨年よりも2～3日遅れていると思われますが、地域差があります。落花後(第3回)の防除が実施されていない場合は、早めの実施しましょう。また、病害虫ではせん孔細菌病の発生が心配されます。せん孔細菌病防除は、梅雨明けまでが重要防除時期となりますので、当面は散布間隔7～10日を厳守し、春型枝病斑の除去も併せて実施してください。

【生育状況】白鳳 落花 (調査地点：平岡)

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	平年
開花	5/1	4/27	5/5	5/9	5/3	5/1	4/28	5/7	5/9	5/5	5/7	5/4

もも

2回分の防除を掲載しています

*隣接する園地や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。

*ももとネクタリンの混植園は、ネクタリンの防除を実施してください。

第4回 定期防除

散布時期：5月17日～22日 *散布時期は目安です。
(前回散布から10日以内を厳守してください)

散布薬剤： 水	100ℓ	
展着剤	10ml	
アプロードフロアブル	100ml	(21日前、3回)
トレノックスフロアブル	200ml	(7日前、5回)
モスピラン顆粒水溶剤	25g	(前日、3回)
アグレプト水和剤	100g	(60日前、2回)

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、(うどんこ病)

アブラムシ類、モモハモグリガ、シンクイムシ類、カイガラムシ類幼虫

10a 当り散布量：400ℓ

【注意事項】

- ①アグレプト水和剤は、ぶどうにかかると種無し果を生じるので隣接園は注意し絶対かからないようにする。
- ②アグレプト水和剤に代えて、ストマイ液剤20の1,000倍(60日前、2回)でもよい。

第5回 定期防除

散布時期：5月27日～6月1日 *散布時期は目安です。
(第4回散布から10日以内を厳守してください)

散布薬剤： 水	100ℓ	
展着剤	10ml	
ハチハチフロアブル	50ml	(前日、2回)
トレノックスフロアブル	200ml	(7日前、5回)
マイコシールド	66g	(21日前、5回)

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病害虫：せん孔細菌病、(うどんこ病)、黒星病、灰星病、モモハモグリガ、アブラムシ類、シンクイムシ類
10a 当り散布量：500ℓ

【注意事項】

- ①ウメシロカイガラムシ発生園は、コルト顆粒水和剤3,000倍(前日、3回)を加用散布する。
- ②葉色が薄い場合や黄化が見られる場合は、ビッグマグの1,000倍を今回から3回程度連続して加用する。

裏面はネクタリンの防除、今後の管理作業です

第4回 定期防除

散布時期：5月16日～21日 *散布時期は目安です。
 (*前回散布から10日後を厳守してください)

散布薬剤： 水	100ℓ	
展着剤	10ml	
アプロードフロアブル	100ml	(45日前、2回)
トレノックスフロアブル	200ml	(30日前、5回)
モスピラン顆粒水溶剤	25g	(3日前、3回)
マイコシールド	66g	(28日前、5回)

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、
 カイガラムシ類幼虫、モモハモグリガ、アブラムシ類、シンクイムシ類
 10a 当り散布量： 400ℓ

【注意事項】

①アグレプト水和剤、ストマイ液剤はネクタリンに登録がないため使用しない。

第5回 定期防除

散布時期：5月26日～31日 *散布時期は目安です。
 (*第4回散布から10日後を厳守してください)

散布薬剤： 水	100ℓ	
展着剤	10ml	
ハチハチフロアブル	50ml	(前日、2回)
トレノックスフロアブル	200ml	(30日前、5回)
マイコシールド	66g	(28日前、5回)

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、(うどんこ病) シンクイムシ類、モモハモグリガ、アブラムシ類
 10a 当り散布量： 500ℓ

【注意事項】

- ①ウメシロカイガラムシ発生園は、コルト顆粒水和剤3,000倍(前日、3回)を加用散布する。
- ②葉色が薄い場合や黄化が見られる場合は、ビッグマグの1,000倍を今回から3回程度連続して加用する。
- ③アグレプト水和剤、ストマイ液剤はネクタリンに登録がないため使用しない。

◎予備摘果の実施： 摘果は結実が確定してから実施してください。

凍霜害による結実への影響が心配されます。
 満開後3週間位(5月15日頃)から結実の良さそうな品種中心に摘果を始め、
 川中島白桃・黄金桃・ファンタジア・秀峰等は生理的落果もあるため後半
 (6月中旬頃)に行なってください。 *表1参照

表1 結果枝別着果量の目安

結果枝	予備摘果	本摘果
長果枝	2～3個	1～2個
中果枝	1～2個	0～1個
短果枝	0～1個	0～1個

(果樹指導指針より)

★せん孔細菌病対策について

⇒ 春型枝病斑(スプリングキャンカー)の切除を徹底的に行いましょう。

◎第1次伝染源である春型枝病斑を見つけたら切除し、園外へ運び出し処分する。

- (説明) ①春型枝病斑は、4月末頃から2年枝上に現われる。
- ②春型枝病斑は、2年枝上の芽の基部を中心に現われ、
 黒色水浸状態で亀裂を生じヤニを発生することもある。(写真参照)



典型的な枝病斑